



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA - CENTENNIAL

c/o YMCA-INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
 Dojima Grand Bldg., 1-5-17
 Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
 PHONE (06)344-1717

カット 柴田 健

APRIL, 1989 VI-10

	1988-1989	THEME
IP	共に歩き友となる	WALK BESIDE ME AND BE MY FRIEND
RD	核心 拡充 活発 改革	VISION VOICE VITALITY
DG	理想を追い求めよう	WE GROW OLD BY DESERTING OUR IDEALS
CP	クラブコミュニケーションの輪を強めよう	LET'S MAKE OUR CLUB OPEN & FRIENDLY

EMPHASIS THIS MONTH: JAPAN...ASF・YMCAサービスの月

今月の聖句

たといわたしが、人々の言葉や御使いたちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じである。たといまた、わたしに予言する力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡してももし愛がなければ、いっさいは無益である。

コリント人への第一の手紙13章1-3節

Statistics (統計)			
会員数	38名	ニコニコ献金	23,100円
第1例会会員出席	20名		(3月分)
第2例会会員出席	12名		
メークアップ	2名	BF	切手(pt) 現金(pt)
出席率	57.89%	3月	1,000 8,030
		累計	82,000 26,080
ゲスト&ビジター	6名		
メネット&コメント	3名		

3月の切手提供者-鈴木君、山田君、山村君、掛江君、杉浦君、上月君、藤原君、YMCA国際・社会奉仕センター
 ◆特記 YMCAより976gの大量の切手提供がありました。

4月第1例会プログラム

(今月のテーマ: ASF・YMCAサービス)

日時 1989年4月19日(水) P.M.6:30-8:30

場所 堂島YMCA国際社会奉仕センター

司会 村田君

1. 開会 会長
2. ワイズソング 一同
3. 聖句朗読 松添君
4. ゲスト紹介 会長
5. 日々の糧
6. 晩さん
7. スピーチ「今! YMCA と Y'smen の
 パートナーシップについて」
 大阪YMCA総主事 橋本憲之氏
 「我がクラブの YMCA サービスの働き」
 YMCAサービス担当委員 山田孝彦君
8. お誕生日祝い
9. ニコニコ献金 トライバー
10. 役員会、委員会報告、YMCAニュース
11. 閉会 会長

今月の例会当番

第1班: 藤井道、黒田、村田、松添、川越、有本の
 みなさん準備、後片付け等ご協力お願いします。

プログラム委員からのお知らせ

5月は、「メネット・ファミリー」の月。
 日本区メネット事業主任、京極美栄子さんをお迎えして、メネットの活動の現状と展望についてお話をうかがう予定です。そして恒例のメネット心尽しの”ボットラックサバー”お腹をぺこぺこに減らして来て下さい。

掛江康一

毎回、多彩なゲストスピーカーを迎えて例会を持っておりますが、3月例会は、また一段と興味深いものがありました。スパニッシュミッションスタイルという建築様式があり、その様式で建てられている関西学院の新しい校舎の建替えという仕事に携わっておられる建築家内藤徹男氏が、その調査研究のために歩かれたカリフォルニアのミッション（伝道の拠点、基地）の現状を、スライドを中心にして話して下さいました。

1767年からのカリフォルニアの布教においてフランシスコ会は、ミッションを次々と作りました。それらは本国スペインの様式を取り入れておりますのでスパニッシュミッションスタイルと呼ばれております。スライドに映し出されたカリフォルニアの青い空のもとでのスパニッシュスタイルの礼拝堂、鐘楼などを見ていると、思わずスペインの風景を見ているような錯覚に陥りました。また、一旦放棄されて廃墟となった古いミッションの建物を忠実に元の形に復元している例が幾つもスライドで紹介され、記録写真でその廃墟の時の様子を見て現在の白亜の姿を見ると、その復元にかかる情熱がうかがい知れるようです。

スライドは順次送られ最後の2枚となりましたが、その2枚は関西学院の空中撮影の写真と正面中央の図書館でありまして、それまで見てきたスパニッシュスタイルのミッションと全く違和感なく連続している事に、会員の中からどよめき起きたほどです。建築というのは一つの文化であり歴史的背景を持っているものだという事がよくわかり、その歴史的背景や源（みなもと）を捜し求めそれを大事にされる内藤氏のお話を聞いて感謝でした。

さて、私達にとってもう一つの嬉しいことは、蔭山氏の入会式でした。2月の中堂氏の入会式を行った私達センテニアルワイズは続けてまたフレッシュなメンバーを迎えることが出来ました。蔭山氏のセンテニアルとの不思議な出会いは、また御本人から自己紹介という形で紙面に載る予定です。ご期待下さい。

以上



平田 雅利

今月は当月と入れ替りASF・YMCAの月になっております。ゲストスピーカーに大変お忙しい橋本憲之大阪YMCA総主事をお迎えいたしまして「今、YMCAとY'Sとのパートナーシップについて」のテーマにてお話をいただきます。我々のクラブの原点であります“YMCAのためのサービスクラブ”についても一度振り返り、考える一時を持ちたいと思いません。多数の皆様のお席をお待ちいたします。

第13回アジア地域コンベンションのご案内

来る10月12日より14日の3日間韓国KYONGJUにて開催されます。会費は、5月中に申込の場合は140USドル、以後は150USドル、ホテルは一泊、76USドルにて受付をしております。多数の御参加を！

中西部発足準備会報告

3月18日新中西部の発足準備会が時期中西部長中川健蔵君の司会にて進められました。

- 中西部々則については原案通り承認され6月24日の新旧合同評議会にて議決する
- 中西部新役員研修会5月13日（土）実施
- 事業主査IBC・YEPP-センテニアル、BF-西、CS-高槻、EMC-枚方、Yサ-ASF-豊中、TOF-土佐堀、幹事-千里

一書記からのお知らせ

89-90年度のセンテニアルワイズの役員・事業委員の構成が決まりましたので、お知らせ致します。

89-90年度役員、事業委員会名簿

役員

会長	山村幸明	書記	佐藤勝雄
副会長	黒田徹之	〃	三浦直之
〃	掛江康一	会計	上月英子

各事業委員会（・は委員長）

BF	・杉浦	松尾	
YEPP	・黒田	蔭山	佐藤 有本
ASF・YMCA	・山田	平田	
IBC	・堀	谷川	横山 森
ﾌﾞﾗｲﾄﾞ	・掛江	柴田(行夫)	川越
CS	・田中	中堂	
ﾌﾞﾛｸﾞﾗﾑ	・中村	湯浅	前田
EMC	・鈴木	藤原	
ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ	・河野	真嶋	
ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰ	・藤本	村田	
MET	・福永	正司	松添
物品サービス	・松本	三浦	

「デンマークの少年のホスト・ファミリーを 引き受けて下さい」

—中西部YEEP事業主査黒田巖之氏より—

Y'sメンズクラブの青少年交換計画(YEEP)というのがあるということは皆様ご存じだと思います。日本からもワイズメンの子弟を海外に送りホストしてもらい、海外からの青少年をホストして引き受けるという交換を通じて、国際交流と次の世代の若者の視野や見聞を広めるために大変役立っております。

そのYEEPに基づき、今年8月から1年間、デンマークから17才の少年が大阪へ来て、YMCAの国際高校で勉学することになりました。大阪クラブで、89年8月から90年1月まで、その後3カ月ほどどなたかにホスト・ファミリーをお引き受け頂きたく、目下募集しております。

滞在費用の補助、その他交通費等については中西部YEEP主査黒田巖之会員にお尋ね下さい。大阪クラブのco-hostクラブとしてセンチアルの他に土佐堀クラブまたは豊中クラブにお引き受け頂く(交渉中)ことになっています。

WELCOME TO OSAKA



第44回ワイズメンズクラブ国際協会
大阪日本区大会

と き
1989年6月17日(出)~18日(回)

と ころ
大阪市中央公会堂・ロイヤルホテル
ホストクラブ
大阪高槻ワイズメンズクラブ

自己紹介

中堂祐保

黒田巖之様との再会がご縁でこのたびメンバーに加えていただくことになりました。皆様、よろしくお願いたします。

黒田様との出会いはもう二十数年も昔、私が大学生の時でした。哲学を専攻していた私にとって神は大きなテーマであり、神を信じている人と話す機会が欲しいと思っていたところ、友人が京都YMCAでアルバイトをしていることを知り、私も教育部でアルバイトをさせていただくことになりました。黒田様はその時同部の主事をしておられ、上司であったわけですが、私は時間があれば若い主事さんや女子職員に議論を持ちかけていた印象が残っており、あまり良いアルバイト生ではなかったように思います。

大学を出てからほとんどお会いしたことはなかったのですが、昨年秋から通勤電車で何度かお会いするようになり、ワイズメンへのお誘いをうけました。YMCAと言えば、私の息子(小学四年)が一人っ子のため甘やかしてはいけないと思い、四歳のときから野外活動の方でお世話になっております。六年もお世話になっているので、すっかりYMCAっ子という感じで、黒田様との再会も何か不思議な

ご縁を感じずにはおれません。

前書きが長くなりましたが、私は大学卒業後、地方紙の記者を一年したあと毎日新聞に移り、記者生活十六年、美術展の企画、運営三年三ヶ月を経て、昨年二月から現職の宣伝の方の仕事をしています。

ニュースを追う新聞記者は、素晴らしい人々にもたくさん出会うことができますが、なかなか交流を深めるということではできず、やりがいと併行してむなしさもつづります。こんな生活の中で、彦根支局勤務の時、ポートビーブルの日本定住に情熱を注ぐクレッチャー神父様にお会いし共鳴して、日本語を教えたり、就職や住宅の世話に飛び回った事があります。

この時ご一緒にボランティアをした高校の先生方や教会の人々と過ごした時間は、何故か心に残るものがあります。してあげるというボランティアではなく、日常生活の中で自分ができる範囲の事を、ごく自然に自分のこととしてする、というボランティアを経験しました。大阪勤務になってからはグラウンドがあまりにも広すぎて生活の延長上でボランティアをすることは無理だと思っておりましたが、今回ワイズメンに入れていただくことになりましたのは、こうした一連の出来事、出会いがご縁になったのではないかとおぼろげにはおれません。

南米(アルゼンチン・ブラジル)を旅して 3

中村 隆幸

リオデジャネイロへ

ブエノスアイレスから約4時間後にガレオン国際空港に到着し、バスでコロコバードの丘Sバードの丘のふもとを通って市内に入り、コバカバアナ海岸にあるリオ・オットンバレスホテルに着いた。部屋からは、コバカバアナ海岸全体が見渡せたが、大西洋は曇っていたために鉛色をしており、やや寒々とした感じで泳いでいる人も殆どいなかった。翌日は天候も回復し、コバカバアナ海岸、イパネマ海岸を見物したが、噂どおり超ビキニ姿の女性達が砂浜で日光浴をしたり、ビーチバレーをしているのを見るのは本当に目の保養になった。海岸をあとにして、海拔710mの絶壁の頂に立つキリスト像で有名なコロコバードの丘に向い、スイスの登山電車を思わせるようなケーブルカーにのり、20分後にキリストの立像の立っている丘の頂きにたどり着いた。キリスト像は高さ30m、横一文字に広げた両手の差渡しは28mで、建造されたのは、1931年とのことでした。この丘からみる白い孤を描いた海岸線の美しさや雄大さ、さらには正面に見える「ボン・ジ・アスカ」(砂糖のパン)という奇岩に目を見張った。

シユラスゴとサンパショ

ブラジル名物の食べ物といえばやはり肉料理である。し

かもアルゼンチンと同じように焼肉で「シュラスコ」と呼ばれ、長いサーベルのような剣に刺して焼いた肉のかたまりを、鋭いナイフでお皿の上にそぎおとしてくれる。おかわりはただであるが、アルゼンチンと同様に好みの肉だけを食わないと、そんなおかわりはできない量である。私達はレーメ海岸に面した有名な肉料理店「マリウスの店」に行きましたが、この店は「シュラスコ」と椰子の芽料理（日本の筍の味に似ている）が評判です。

食事の後に、「ブラッタフォルマ・ウン」という約1000名の観客を収容できる劇場でサンパショーを観た。ショーはリオのカーニバルを再現したものが多く、豪華な衣装を身に着けた踊り子たちが（実は露出度90%である）、強烈なリズムに乗って踊りまくるさまと音楽のすさまじさは圧巻であった。強烈な地酒とサンパのリズムに酔いしれて、その夜は興奮してなかなか寝つかれなかった。

-次号（最終回）に続く-



ワイズソング

-1-

Once more we stand, new zeal our hearts imbuing,
We raise our hand, Our service pledge renewing,

Ne'er to deny our motto's claim
Y's Men in fact as well as name

Always our objects to pursue
We consecrate ourselves a new.

-2-

うたえば ころろひとつに
ともがき ひろがりゆきて

とおきも ちかきもみな
ささげて たつやY' Men

さかえと ほまれゆたか
まことは むねにあふれん。

私の家族

山村 幸明

我が家は5人家族と雄猫（ロッキー君）です。親離れ子離れがスピード駆けて進行中、それも当然のこと我々夫婦は五十路を越えた年齢に達しました。

長男、雅雄（まさお）は25歳、社会人となり完全終了と言うところ。次男、明は大学3回生となり、特別の事がない限り、親への相談もなく、親も必要でない年齢に達した模様、大学でのクラブ活動（居合道、2段）出費の多いことか、アルバイトの副収入で、収支を合わせているとの事、いつ登校して、いつ帰宅するやら親の心配をよそに大学生活、ただしクラブ活動は規則正しい模様で、心配無用と家内の返事。

長女、三千子（末っ子）は、17歳（府立高校休学中）で、親の心配をよそに、昨年8月にアメリカに出発、ミズリー州セントルイスの高校へ、一年間の交換学生として留学中、自らの希望で実現したこと、親として、もし大学生、社会人であったら反対したこと、おおいにあり、ホームステイも、四軒目やら、当地では我々に替わりホームステイの両親の管理下での御指導に感謝しています。我が家では兄二人の女の子一人、ホームシックは無いと思うものの、女性らしい振舞いで、日常生活、学生生活をしているかしら、どちらにしても親離れ、子離れ、目下進行中。

次にロッキー君の紹介、3年前の夏、家族が広島へ墓参りの留守中、留守番役の三千子が近所より捨て猫の赤ちゃんを両親無断で入居させて現在居候中。我が家はマンションのため、外出すれば、たちどころに行方不明、よって外出禁止。10坪余りのベランダが唯一の運動場所、9階建ての8階、大阪府下を見下し、下を飛ぶ鳥、鳩、小鳥を見る程度、かわいそうなロッキー君、猫ちゃんの友達にも恵まれず、家の中では家内の行くところ、ロッキー君あり、ただただ、食事を授かり、かわいがる人が親か恋人か恩人か惨めな事です。昨年の末、体調を崩し、近所の動物病院へ1週間の入院、家族は見舞いに行かず、病院より2度余り、病状の報告あり、退院後？万円の入院費用、彼には健康保険も無く実費払い。今年の年賀状の一枚にロッキー君宛あり、家族びっくり、昨年お世話になった、動物病院からです。唯一人の友人は病院の先生でしょう。ロッキー君と家内とは現住所では猫離れ、人間離れ実現無いでしょう。